

G E A地球環境国際会議 内閣総理大臣来賓挨拶

皇太子殿下、雅子妃殿下のご臨席を賜り、G E A地球環境国際会議の開会に当たりまして、一言ご挨拶を申し上げます。

この会議のため、遠方より来日された皆様を心より歓迎申し上げます。そして、地球環境行動会議の皆様を始め、この会議の開催にご尽力された関係の皆様方のご努力に心から敬意を表します。

昨年、ヨハネスブルグで「持続可能な開発に関する世界サミット」が開催されましたが、地球の環境は、地球温暖化問題、森林の減少、多様な生物種の喪失など、なお深刻な状況にあります。人類の存続にも関わる今日の環境問題は、その原因を突き詰めれば、私たちの日常生活や通常の事業活動から生じる環境負荷があまりにも大きくなっていることに起因しています。

私たちには、21世紀を生きる子孫に、きれいな空気と水、美しい自然など、恵み豊かな環境を引き継ぎ、地球との共生が可能となる社会を実現していく責務があります。そのためには、私たち自身の生活を根本から見直し、社会経済のあり方そのものを持続可能なものへと変革していかなければなりません。

こうした考えから、小泉内閣は、環境保全と自然との共生を、最重要課題の一つとして取り組んでまいりました。

まず身近なところから環境問題に取り組もうということで、私は、総理大臣に就任して直ちに、原則として、政府のすべての公用車7000台を、三年で低公害車に切り換えるように指示し、実行してまいりました。昨年は、世界で初めて市販された燃料電池車を公用車として導入しました。この結果、わが国において低公害車の普及が大きく進んでいます。科学技術を活用して環境保全と経済発展を両立させるという小泉内閣の基本方針が具体化し好例です。今後こうした考え方に立って、地球温暖化対策、リサイクル対策などを積極的に進めてまいります。

また、私は、ヨハネスブルグ世界サミットにおいて、持続可能な開発を進める鍵は「人」であり、わが国が発展の基礎として「教育」を最重要視してきたことを述べて、「持続可能な開発のための教育の十年」を提案いたしました。この提案は、国連総会においても支持され、2005年から具合的取組が始められることとなりました。

G E A地球環境国際会議において、教育・IT・天然資源をテーマに議論がなされることは、世界各国が地球環境の保全を進めていく上で、大いに意義があると考えます。この会議の成果が地球の持続可能な未来に貢献することを祈念して、私の挨拶といたします。